

せっかち 園長の ひといごと

2016、11、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

今年のインフルエンザは、いつもより早かったですね。

近くの中学校で学級閉鎖と聞いていたら、その後すぐでした、本園で流行し始めたのが。ですが、保護者の皆さんお一人お一人のご協力（毎日の検温、学級・学年閉鎖など）もあり、まずは一つのヤマを越えたかな、と思います。でも本格的な冬はこれからです。また何かの感染症（インフル含む）が流行することもあるでしょう。

子どもが集まる施設での感染症対策の困難さ、病気に負けない身体作りの大切さ、保護者の皆さんと職員が一致団結して取り組むことの大切さなどなど、いろいろなことを、また考えました。



この先、何があるかわからない・・・

いろいろ考えると疲れてしまいますが、イギリスのEU離脱、アメリカの大統領選挙、そして自然災害など、予測していなかったことが起きますね。私が子どもだった昭和のころは、社会も自然も、もっとのんびりしていた気がします。しかし、今は転換点というか、もしかしたら何か大きな節目のような時期なのかもしれません（とくに根拠はなく私の個人的な感想）。

先日、富士山の世界遺産（『世界文化遺産』）登録に大きく貢献した渡辺豊博先生の話を知りました。正直、ちょっとショックでした。例えば、「30年以内に噴火の可能性73%！」「山頂の永久凍土が溶け始めている！」「『世界文化遺産』登録抹消の危機！」「山頂に流れる『白い川』の正体は！」「水源が消えた！？深刻な湧水問題」。

ついこの間、東北地方でまた地震がありましたね。津波も心配されました。このような大地の大きな動きを想像すると、73%の確立で富士山が噴火するというのがリアルになってきます。本当に、この先、何があるかわかりません。インフルなどの感染症対策もそうですが、災害をめぐる危機管理では、「何がどうなったら何をどうする」という指針を基準に、冷静な対応を心がけるのが大切です。どこまで詳細に想定できるかが問われるわけですが、いろいろ考え過ぎてプってしまうことがないよう、危機管理的な発想が大切です。



富士山曼荼羅↑

続く↓

しかし富士山は、人間の力が及ばない大きな自然の力に「守り」で備えることプラス、「攻め」の大切さ、すなわち子どもに何を伝える教育の重要性も教えてくれます。

先ほどの「山頂の永久凍土が溶け始めている！？」「水源が消えた！？深刻な湧水問題」は、地球温暖化に関係したことと思われるし、「『世界文化遺産』登録抹消の危機！？」「山頂に流れる『白い川』の正体は！？」については、日本の環境教育がいかにも遅れているかの証明のようなものだと思います。

山頂に流れる『白い川』って、私は何のことかわからなかったのですが、これは、登山シーズンの終わりの時期に山頂付近の山小屋がトイレの汚物を薬品を使って垂れ流す際にできる『川』のことでした。そして大量のごみが廃棄されていることも、最初に自然遺産の登録が見送られた際に問題になりましたよね（そのため自然遺産をあきらめ、『富士講』という富士山信仰をベースにした「文化遺産」に切り替えその登録を得た経緯があります）。

冒頭に紹介した渡辺先生の話によると、ニュージーランドでは、先住民族のマオリ族の聖地であるトンガリロという国立公園が世界遺産になっているけれど、ごみはほぼ100%落ちていないそうです。それは、同じく渡辺先生の話によると、子どもたちへの教育の効果だということです。ニュージーランドでは、その日一日水道だけではなく、何とトイレも使わない日を過ごすのだそうです。トイレを使わないって、イメージできますか？・・・単に家のトイレを使わないっていうのではなく、携帯トイレで用を足し、その後の処理まできちんとするというのが、ニュージーランドのその日の一日なのです。日本では、山小屋のトイレが垂れ流しというだけでなく、使用済み紙おむつが散乱している現状も、渡辺先生のスライドで見せてもらいました。情けないし恥ずかしい・・・本当に、世界遺産登録抹消の危機です。



これは、男体山↑

もしかして思いのほか早い時期に噴火する恐れ存在ではありますが、やはり富士山は、私たちの精神的支えでもあると思うのです。とくに愛国心を鼓舞する気はありませんが、どの国の誰であっても、そのような心の支えというのは必要かと。富士山、それは私たちにとって、自然と文化の象徴だと思うのです。

心理学に“アイデンティティ”（自我同一性）という言葉があります。それは、自分がどこからきてどこに行くのか？という感覚に近いものかもしれません。ここでは、例えばということで富士山の話をしました。私は、人が安定した気持ちで前向きに生きるためには、それぞれの人の拠り所が必要だと思うのです。そんなの関係なく、今だけ、スマホでつながっていればいい？・・・私には、そう思えないのです。

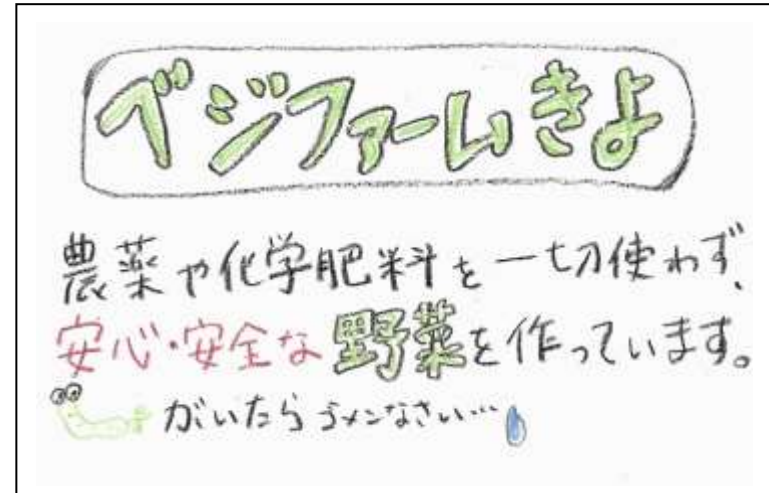
次に、「ベジファームきよ」の話・・・

カフェ re. (リードット) のスタッフだった影山さんが、12月から野菜の販売をしてくれます。すでに re. (リードット) で、影山さんの野菜をご覧になった方もいるかもしれませんが、農薬と化学肥料を一切使わない野菜。今の時期だと、葉物です。

本園の食事（給食）でも、地産地消でしっかりした野菜を使っていますが、農薬と化学肥料を一切使わないというのは、かなり稀で貴重なことと言えます。

それは、とにかく手間暇かかるということと、流通に乗せるだけの量を作ることが困難だ、という理由からです。

*本園の調理室では、農薬と化学肥料に関する基準を遵守し、調理前に、電解水でしっかり（3回）洗浄するという扱いになっています。



その本来の時期に（旬の時期に）、人が暮らしているその場所でとれた（地産地消の）より自然な野菜は、今、とても贅沢な食べ物なのですね。なので、ベジファームきよ（影山さん）の野菜販売は、基本的に週一回となります。東門のお迎えの際（午後2時20分から）と、南門のお迎えの際（夕方のお迎え時）で、隔週の販売となる予定です。たくさんの量がとれないからです。



インフルエンザに限らず感染症対策が難しい現代社会ですが、**病気に負けない身体作り**がますます重要になりますね。いざとなったら、お医者さんやお薬に頼るわけですが、まずは**自然な免疫力**を高める生活を心がける必要があります。それは、いっぱい元気に遊んで、身体に良いものをたくさん食べるなどの生活。実際に何をどう食べるのか・・・。「食育」の大切さを痛感します。日本人が昔から食べてきたものをわかりやすく伝えてくれるフレーズがあります。それは・・・、

ま（豆）ご（ゴマ）は（わかめ）や（野菜）さ（魚）し（シイタケ）い（いも）

参考になればうれしいです。また、ベジファームきよの野菜を近いうちに、ぜひ見ていただきたいです。

最後の話題です 『幼児教育 140 周年』

ここで紹介するのは、今度の1月に文部科学省で開かれる研究会（シンポジウム）のチラシです。

この研究会は、2つの目的があって開催されます。

- ①全国の都道府県に「幼児教育センター」を作ろう。
 - ・・・ご記憶にある方もいるかと思いますが、栃木にはすでに「幼児教育センター」があります。本園が赤見小学校とコラボした「接続」プロジェクトは、栃木県幼児教育センターがバックアップして取組まれたものでした。
 - ・・・そのような「幼児教育センター」を全国に作ろう！ということなので、栃木は先進県ということになります。
- ②もう一つの目的は、日本で幼児教育が始まって140年経つことを、記念しようということ。
 - ・・・日本で初めてできた幼稚園は、今のお茶の水女子大学附属幼稚園。この幼稚園ができたことで日本で幼児教育が始まったとされるわけで、本当だったら、この研究会にはお茶の水女子大学附属幼稚園が招かれるべき。
 - ・・・ところが光栄なことに、ここに本園を代表して私が登場します。
 - ・・・これは、保護者の皆さんと本園の保育者たちが、遊びを中心にした認定こども園を作ること、で、「これからの」幼児教育の在り方を示しているからだと思うのです。子どもたちのために、これからも・・・。

加 無料
定員 300名

幼児教育研究センター 認定記念
平成28年度教育研究公開シンポジウム

幼児教育の 質の向上を支える研究と研修の 在り方を考える

～ 幼児教育140年の歴史から未来を考える ～

国内外において幼児教育への関心が高まっていることを背景として、本年4月に国立教育政策研究所内に幼児教育研究センターが設置されました。同センターの発足を記念し、幼児教育の質を高め幼児教育政策に資する研究の在り方や、保育者の質向上を支える研修の在り方、同センターと各機関との協働等について、幅広い関係者の方々と懇話を深め、今後の幼児教育研究の在り方を展望・考察する機会とします。

本年は幼児教育140周年の記念すべき年でもあり、この機会にこれまでの幼児教育の歩みを振り返りつつ、今後の在り方を考えます。

2017年
日時 1月16日 13:00～17:00 場所 文部科学省 3階講堂

プログラム

12:30～ 受付

13:00～ 開会・所長挨拶
国立教育政策研究所長 杉野 朋

これまでの幼児教育と今後の展望
文部科学省審判官兼幼児教育部長 伊藤 幸司

幼児教育140年の歩み
お茶の水女子大学長/国立教育政策研究所長 齋藤 孝子

幼児教育研究センター紹介
国立教育政策研究所幼児教育研究センター長 渡邊 麗子

13:50～ 質疑応答
質の向上を支える研修と研究
文部科学省審判官兼幼児教育部長/国立教育政策研究所長 上野アユコ
秋田 善代美

15:10～ パネルディスカッション
今後の幼児教育の目指すもの：
これまでの歩みとこれからの在り方
国立教育政策研究所 幼児教育部長 渡邊 紀香

国立大学大学院総長 白河 伸
国立大学大学院総長 上野アユコ
秋田 善代美
文部科学省 幼児教育部長 上野アユコ
秋田 善代美

文部科学省 幼児教育部長 上野アユコ
秋田 善代美

文部科学省 幼児教育部長 上野アユコ
秋田 善代美

インターネットの会場 本研究所HP <http://www.nier.go.jp/> イベント情報の特設サイトから
FAXの会場 チラシ配布の会場 申込用紙により 03-5383-1204まで
お問い合わせ TEL 03-5383-1202 FAX 03-5383-1204 申込用紙 申込用紙 申込用紙

NIER 文部科学省 国立教育政策研究所
東京・金沢教育研究推進局、日本保育学会